



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

かんが
考えを^か変えることで

じんせい
人生は

よくも悪くも^{わる}なります

物の見方、考え方

見方によって違いが

インターネットを見ていましたら、犬の介護で仕事を辞めたり、転職したりする人がいるというニュースがありました。最近人間と同じで、犬も長生きになって、癌になったり認知症になったりするそうです。どうして面倒が見られない人は施設に預けるのだそうです。人間と同じです。

世の中変わってきたものだと思います。しかし犬を家族同様に思っている人は、介護をするのは当然だ、となるのでしょうか。

物の見方は人それぞれ違います。犬を飼っていない人にとつては、犬の介護か、と思うのでしょうか、犬を飼っている人にとつては当然のこと、となるのです。世の中は人によって見え方が違います。

物事には、いろいろな見え方があるようです。例えば「1+1=2」は変わらない法則のように思えますが、エジソンのような天才はそう見ないのです。

小学校の時に先生が「1+1=2です」と

言う^いとエジソン^いが「先生^{せんせい}、違^{ちが}いますよ」と言^いったそうです。二つの粘土^{ねんど}をばっとくつつけて「一足^たすは一にもなります」と言^いったのです。そう言ったことが重^{かさ}なり、ついに先生^{せんせい}から「エジソン^{くん}君^{きみ}、君^{きみ}は邪魔^{じゃま}になるからもう来^こないでくれ」と言^いわれ、学校^{がっこう}を追放^{ついほう}になつてしまいました。しかしお母^{かあ}さんが偉^{えら}い人^{ひと}で、一生懸命^{いっしょうけんめい}教え、かわいがつて、エジソン^{てん}を天才^{さいはつめい}發明家^かにしたのです。

デンマーク^{しゅと}の首都^{しゅと}・コペンハーゲン^{しゅと}にある大学^{だいがく}の物理学^{ぶつりがく}の試験^{しけん}で「氣圧計^{きあつけい}を一台^{だいいつ}使^{つか}つて高層ビル^{こうそうビル}の高^{たか}さを算出^{さんしゅつ}する方法^{ほうほう}を説明^{せつめい}せよ」という問題^{もんだい}が出^でました。大学^{だいがく}の物理^{ぶつり}の試験^{しけん}ら

しい問題^{もんだい}です。先生^{せんせい}達^{たち}は一つの答^{こた}え、つまり「ビル^{ビル}の屋上^{おくじょう}と地上^{ちじょう}の氣圧^{きあつ}をそれぞれ計^{はか}り、ミリバール^{ミリバール}という単位^{たんい}をセンチメートル^{センチメートル}に換^{かん}算^{さん}してビル^{ビル}の高^{たか}さを出^だす」という答^{こた}えを期待^{きたい}していたのですが、一人^{ひとり}の学生^{がくせい}が「氣圧計^{きあつけい}に長^{なが}い紐^{ひも}を結び付^つけて高層ビル^{こうそうビル}の屋上^{おくじょう}から地上^{ちじょう}に垂^たらし、その紐^{ひも}の長^{なが}さを測^{はか}ればよい」と答^{こた}えしました。その答^{こた}えをみた先生^{せんせい}は「バカなことを。頓智^{とんち}じゃないんだ」と○点^{てん}にしてしまいました。するとその学生^{がくせい}は「先生^{せんせい}はおかしい。僕^{ぼく}の答^{こた}えも一つの回答^{かいとう}として正しいのではありませんか」と、文句^{もんく}を言^いってきました。そして先生^{せんせい}達^{たち}が集^{あつ}まつて面接^{めんせつ}をすることになりました。そこでその学生^{がくせい}が「方法^{ほうほう}は他^{ほか}にもいろ

いろいろ考えられる。僕は一番簡単でいい方法を
答案に書いたんだ」と言いました。そして
「屋上から気圧計を落として地面に達するま
での時間を計る」とか、「晴れた日に、気圧
計の長さで、気圧計を地面に置いた時の影の
長さを測る。次に高層ビルの影の長さを測れ
ば、比例の計算でわかる」とも言いました。
他にも、いくつかの答えを提示したこの学
生は、最後にこう言ったのです。

「単に、オーソドックスな解答を、というの
であれば、この気圧計で屋上と地上の気圧を
計って、ミリバールの差をセンチに換算すれ
ばいい。でも僕は常に自由な発想をして科
学に取り組むようにと指導されています。そ

う考えると、一番いい方法は、ビルの管理人
に『この気圧計をプレゼントするから、ビル
の高さを教えて下さい』と言うことでしょ
うね」

なかなか痛快な話です。先生達が一本とら
れた感じですよ。

この学生こそが、後にデンマーク人として
初のノーベル物理学賞を受賞したニールス・
ボアその人です。やはり天才と言われる人は、
物の見方が一面的ではないのです。

日本一の投資家で日本のウォーレン・バフ
エットと言われている竹田和平さんは「投資
で成功し、幸せになろうと思うならとにかく

人を喜ばせなければいけない。また、人のことを喜ばなければいけない、自分のことは二の次、三の次だ」と言われています。その竹田さんに、本田晃一さんという人が弟子入りをしました。そして、竹田さんの行動をつぶさに観察して本にしました。

その中に、竹田さんとうどん屋さんに行った時のことが書いてありました。

竹田さんが「このうどんはおいしいよ。

それにおにぎりもおいしいんだ。うどんとおにぎりを一緒に頼むといいよ」と言うので、うどんとおにぎりを注文すると、「今日はおにぎりは売り切れてありません」と言われました。そこで、普通の人は「ああ、残念だ」

と思いますが、竹田さんは「良かったなあ。おにぎりがなくなつたということは、今日このお店は商売繁盛、満員御礼だったということだ。めでたいめでたい」と言つて、自分のことのように喜びながらうどんだけを食べたそうです。

「こういう物の見方をしないといけないな」と本田さんは思ったそうです。

近鉄電車の七代目の社長・佐伯勇さんは「よく『果報は寝て待て』と言うが、果報は寝て待てではなく『果報は練つて待てだ』。そこに成功への道が開ける」と言われました。つまり、絶えず考へて、自分の考へを練つ

ているとどんなこともチャンスに変わる」ということです。

昭和三十四年、伊勢湾台風がありました。

あの時、近鉄名古屋線は壊滅的な被害を受け、営業ができなくなりました。普通の人だった「自然災害だから仕方がない」と諦めるのでしようが、佐伯さんは「これはチャンスだ。これまで、走っている電車を止めてまで、新しいことがなかなかできなかった。これを機会に名古屋から大阪までの沿線を全部作ってしまおう」と考え、実行されました。

物の見方によっては災難も好機に変わるのです。物事には、人間にも長所と短所があるように、必ず明るい見方と暗い見方があるの

です。

経営の神様・松下幸之助さんはいつも、物を明るい方面から見ていらつしやった方です。有名な話ですが、松下さんの子どもの頃、お父さんが米相場に手を出して、裕福な家庭でしたが全財産をなくしてしまいました。そこで小学校を中退になり、大阪の火鉢問屋に奉公に出されました。十人の家族がいましたが、一家は離散してほとんどの人が肺結核で亡くなってしまいました。松下さん自身も、二十歳の時に肺炎カタルという病気にかかって生涯、身体が弱かったそうです。

娘さんの話では、その影響で冬場はほとん

ど寝ねていて、病床びようしやうから指示しじを出だしていたそうです。そんな松下まつしたさんですが、周りの人ひとにいつも「私は運うんがいい。小学校中退しやうがっこうちゆうたいだったから運うんが良かった。もし大学だいがくにでも行いっていたら、分わからないことを他人たにんに尋ねることができなかったろう。行いってなかったから分わからないのがあたりまえで、人ひとにどんどん聞きけた」と言いっていました。そして、その後のちには「衆知しゆち経営けいえい」と言いって「いろいろな人ひとの知恵ちえを集めあつて経営けいえいをすることがあたりまえにできたから運うんが良かった」と言いわれています。

また、身体からだが弱よわかったことについても「運うんが良かった。病氣びやうきで寝ねているのだから仕事しごとができない。だから思おもいきり人ひとに仕事しごとを任まかせる

ことができた。それで会社かいしゃがどんどん大おおきくになった。とにかくツイていることばかりだった」とも言いわれています。

松下まつしたさんは、事業じぎやうを始はじめる前まえに大阪おおさかのセメント会社がいしやでアルバイトをしていました。そのセメント会社がいしやまで小ちいさな蒸氣船じうきせんで運はこばれて行いって、仕事しごとをするのですが、蒸氣船じうきせんに乗のっている時とき、横よこを歩あるいている人ひとがつまづいて海うみに落おちそうになったことがありました。その時とき、松下まつしたさんにつかまったので松下まつしたさんも一しよ緒しょに海うみに落おちてしまいました。普通ふつうの人ひとなら「ツイてないな」と言いうところを「ツイてた。あれが冬ふゆの海うみだったら死しんでいた。夏なつで良よかった。私はろくに泳およげないけれども、すぐに船ふね

がもどつて来てくれた。本当にツイていた」
と言われたそうです。

有名な二股ソケットを作り、自転車の荷台に載せて問屋さんに持って行く時、路面電車の線路にタイヤがはまって倒れてしまったことがありました。積んでいた荷が散乱して全部割れてしまいました。そこに電車が来ました。そして、松下さんの直前で止まりました。周りの人が「ツイてませんね」と言いました。が、松下さんは「ひかれなくてツイていた」と言われたのです。

このように松下さんは「とにかく、物事を明るい面から見るのが大事だ」と言い、「運を持っている人、プラス思考の人は明る

さがある。この明るさがまた運を呼ぶ。マイナス思考の人は不運を呼び込む。だから、物事は明るい方面から見た方がいい。自然に運がやってくるんだ」と教えられています。

どんなことでもプラスの見方とマイナスの見方があります。松下さんのようにプラスの方面から見る努力をするべきだと思います。

「オーラ」のこと

最後にオーラの話をしたと思います。

広大な宇宙の中で一番美しい星は地球だと言われています。宇宙飛行士達は口をそろえて宇宙から見た光り輝く、地球の美しさを語っています。何が地球をそんなに美しく輝か

せているのでしょうか。それは地球に住む生命体のオーラなのです。その中で一番強いオーラを発するのが人間だそうです。そして、物事をプラスに考えている人のオーラは明るくて強く、物事をマイナスに考えている人のオーラは弱くて暗いのだそうです。

しかし、簡単にオーラを明るく強くする方法があるのです。マザーテレサが言っています。

す。「ニコツと微笑んで、ありがとうと言うとその人は光り輝き出すのです」

マザーテレサは、光る人を実際に物理的現象として何度も見ていると言っています。

最高の物の見方は、自分に起こることをすべて、感謝の心で見るということではないのでしょうか。